科目ナンバリング	G-LAS01 80009 LJ10						
授業科目名<英訳>	オープンサイエンス時代の学術研究基礎 Basics of Academic Research in the Open Science Era			担当者所属職名・氏名	附属図書館　教授　村山　泰啓 情報環境機構 准教授　西岡　千文 附属図書館　助教　沼尻　保奈美		
群	大学院共通科目群			分野(分類)	情報テクノサイエンス	使用言語	日本語
旧群		単位数	0.5単位	時間数	7.5時間	授業形態	講義（メディア授業科目）
開講年度・開講期	2026・ 前期集中	曜時限	集中 5月30日（土）2〜5限	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

オープンサイエンスが学術界の様々な場面で推進されている今、これまでのように研究計画に基づいて調査研究を行い、論文として刊行して終わりという学術研究のサイクルではなく、研究の様々な段階で、学術情報を必要に応じて整備・オープン化して、その情報を活用することが求められています。本授業では、オープンサイエンスの定義や国内外の動向を学んだ上で、論文・データの出版・公開などにおけるオープンサイエンスの各側面を体系的に学び、自身の研究において具体的に実現可能な取組み等の検討が可能になることを目指します。

[到達目標]

● オープンサイエンスの概念と国内外の動向を体系的に理解し、自身の研究分野における意義と課題を説明できるようになる。
● 論文や研究データをオープンな形で管理・公開するための具体的な手法とツール（研究データ管理（RDM）、リポジトリ、プレプリントサーバー）の重要性を理解し、実践的意義を説明できるようになる。
● 自身の研究テーマに基づいて、具体的なオープンサイエンスを実践する研究計画の立案を行えるようになり、他者に説明できるようになる。

[授業計画と内容]

授業は以下の内容を予定している。ただし進行状況などによって、講義の内容や順番を変更する可能性がある。

第1 回: オープンサイエンス入門：なぜ今、どのように学術をオープンにするのか？（担当：村山）

● オープンサイエンスとは何か？ (定義、歴史的背景)
● 国内外のオープンサイエンスの動向と主要な政策
● 伝統的な学術研究の課題とオープンサイエンスの必要性
● オープンサイエンスがもたらすメリット (透明性、再現性、社会への貢献)
● 研究者のキャリアパスとオープンサイエンス

第2 回：オープンサイエンスの歴史と現代 （担当：村山）
● 研究データ管理（RDM）の歴史
● 現代の情報通信技術（ICT）基盤におけるRDM の理念
● 電子情報の脆弱性と永続的識別子（DOI、ORCID など）の意義
● データ管理計画（DMP）の在り方と考え方

第3 回：オープンアクセス：論文の壁をなくす （担当：西岡）
● オープンアクセスの背景
● オープンアクセスの方法(グリーンOA、ゴールドOA)

オープンサイエンス時代の学術研究基礎(2)へ続く↓↓↓

オープンサイエンス時代の学術研究基礎(2)

● 論文公開プラットフォームの利用方法 (リポジトリ)
● プレプリントの広まりとプレプリントサーバ
● 著作権とライセンス (クリエイティブ・コモンズ・ライセンス)

第4 回: 研究データ管理（RDM）：データを正しく扱うための基本 （担当：沼尻）
● 研究データとは何か？
● RDM について（定義、意義、研究ライフサイクルにおける位置づけ）
● データ管理計画（DMP）の策定
● データの整理、命名規則、メタデータ
● データの保存とバックアップ
● 演習：自身の研究データを想定して、簡単なDMP を作成する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

【方法】レポート試験：60%・コメントシート（各授業ごと各10%）：40%
【観点】オープンサイエンスの意義を理解する。またその実践を自分の研究・専門分野に即して考えられる。

[教科書]

資料を電子的に配布予定

[授業外学修（予習・復習）等]

授業外学習として課題を課す。

[その他（オフィスアワー等）]

決まったオフィス・アワーは設定していない。面談を希望する場合は、担当教員とメールにて日時を決定する。

[主要授業科目（学部・学科名）]